

受託・共同研究推進事業

1. 目的

森林技術センターが国、独立行政法人、地方公共団体、公益法人、大学もしくは公設試験研究機関、または林業・林産業界の団体もしくは企業等と受託研究、共同研究および受託調査を実施し、産業界の振興に寄与することを目的とする。

2. 受託研究事業

企業及び公益法人から研究を委託されて実施する研究事業。

課題名	概要	担当者	研究期間	委託元
スギこぶ病がスギの衰退に及ぼす影響について	スギこぶ病は、一度発生すると、こぶは毎年肥大して伝染源となり蔓延する。従来、スギこぶ病の林業的被害は軽微とされていたが、長伐期優良材生産を行う奈良県においては、こぶ病の発生と増加、肥大によるスギの衰退は大きな問題となる。このことからスギこぶ病とスギの衰退の関係を明らかにし、対策を検討する。	和口 高田	H29～31	(財)北村森林保護財団

ほか14件

3. 共同研究事業

森林技術センターが他機関と連携して実施する研究事業。

課題名	概要	担当者	研究期間	委託元
突然変異を活用した生産環境と消費者ニーズに優位な食用きのこ新品種の開発	きのこの生産現場における胞子の問題を解決し、市場競争力をつけるため、無孢子性を具備し、実需者及び消費者ニーズが見込まれる形態形質や有用成分含有量が多い品種を育成する。	河合 今治	H27～30	(国学) 鳥取大学
高級菌根性きのこ栽培技術の開発	林産物の中で、きのこは日本人にとってなじみの深い食材であると共に、林業産出額の半分を占めている山村地域の重要な生産品である。 このため、日本の食文化を充実させつつ山村地域の活性化に貢献する研究開発として、付加価値の高い菌根性きのこの栽培を実用化するための技術開発を推進する。	河合 今治	H27～31	(国研) 森林総合研究所

課 題 名	概 要	担当者	研究期間	委託元
クマおよびシカによる人工林の樹皮剥ぎ被害防止資材の効果・性能に関する研究	ツキノワグマおよびニホンジカの樹皮剥ぎ被害が林業経営上の大きな問題となっているため、樹皮剥ぎ防止用に開発された資材について、被害防止の効果を検証し、また耐久性能についても調査を実施する。	高田 和口	H27～R2	信濃化学工業株式会社
要求性能に応じた木材を提供するため、国産大径材丸太の強度から建築部材の強度を予測する技術の開発	スギ大径材からの心去り平角生産を想定し、これに対応可能な蒸気・高周波複合乾燥条件を明らかにするための検討を行う。	成瀬 柳川	H28～R2	(国研) 森林総合 研究所
半炭化処理木質舗装材の高度利用技術開発	半炭化処理による木質舗装材の試験施工後における劣化状況評価、施工コスト精査、及び製品の商業的価値を評価し、地域における半炭化処理木質舗装材の利用モデルを最適化する。	矢杉 岩本 酒井	H30～	(国研) 森林総合 研究所 など
保存処理木材の耐久性調査試験	当センター明日香実験林において、杭試験及びダブルレイヤー試験により、保存処理木材の耐久性を調査する。	酒井 岩本 矢杉	H23～	日本木材防 腐工業組合